

2040
2016
6 / 1

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/有田 洋明 編集人/小松 康則
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

府職労結成 70周年

2016年4月6日
since 1946.04.06

住民の安心・安全のために...



応急仮設住宅建設のため調査する職員

熊本・大分地震 派遣職員 現地レポート

一刻も早く仮設住宅の建設を

住宅まちづくり部

赤石 和也(建築職)

5月16日〜29日

熊本県庁へ派遣

現地での主な職務内容は、応急仮設住宅の候補地(各市町村が選定してきたもの)に赴き、建設可能かのチェックの実施及び現在建設中の応急仮設住宅の中間検査を実施しました。

現場をまわりながら衝撃的だったのは宇土市役所の倒壊現場と益城町の被災状況、多くの方がまだにテントや車中泊をしていることでした。

宇土市役所の4階部分は完全につぶれており、市役所名の入った石の標識も剥がれて倒れていて、地震の規模の大きさが目に見えて分かるほどの被害の大きさでした。

益城町の被災状況は、道

吹田保健所
田中 香奈子(保健師)
5月6日〜10日、
熊本県益城町の総合体育館(避難所)へ派遣
大阪府としては、4月20日より第一班から順次公衆衛生チームを派遣している中で第五班として行かせてもらったので、地震から約1ヶ月経過した時でした。
益城町の公式発表では4776人避難しており、体育館、情報交流センター、テント、野外駐車場の中で避難者が生活されています。上下水道は、体育館周辺など一部地域で断水が続いており、道路も隆起していたり、亀裂も走っています。

避難者の健康管理、復興支援の継続が必要



路のガードレールが下に落ちてしまったり、陥落していたり、道路の所々に段差ができていました。また、全壊した木造住宅や一階層部分がつぶれている建物が28号線沿いにずっと続いていました。

多くの方がテントや車中泊を余儀なくされており、一刻も早く仮設住宅の設置ができるよう協力していきたいと思えました。

家屋も倒壊したままの所が多い状態で、避難所の隣には災害ごみの集積場があり、大量の瓦礫が搬入されていました。

政治を動かすのは国民の力と運動

昨年(安保法制)反対のたたかいは、政治に無関心だった人々も含め、国民の自発的な大きな運動へと

発展しています。その運動が政治を動かす、画期的な野党共闘を実現させています。そして、その野党共闘は、戦争法廃止

野党4党(民進党、日本共産党、生活の党、社民党)が国会に提出した法案(抜粋)

戦争法廃止	昨年9月19日、安倍政権が強行した戦争法(安保法制)のうち「平和安全法制整備法」「国際平和支援法」を廃止する
長時間労働の規制	残業の上限を法律で規制し、次の勤務までに連続休憩時間(勤務間インターバル)の保障を義務付け
介護・障害福祉労働者の賃上げ・人材確保	介護・障害福祉に従事する労働者の賃金を月額1万6千円引上げ
保育士の賃上げ・人材確保	保育士不足の解消のため保育士の賃金を月額5万円引上げひとり親家庭の子どもが大学に進学しやすくなるよう支援するとともに、多子(子どもが2人以上いる)ひとり親家庭への支援を拡充
児童扶養手当の拡充	障害基礎年金と遺族基礎年金で支給対象の拡大
障害年金・遺族年金の拡充	両性の本質的平等の実現に向けて、選択的夫婦別姓の導入や女性の再婚禁止期間の短縮
真の男女平等を	災害被害を受けた住宅再建などに充てる支援金の上限額を300万円から500万円に引上げ
被災者支援	肉用牛、豚肉の標準的な販売価格が生産コストを下回った場合、農畜産業振興機構を補てん
畜産経営を支援	被害者支援計画の策定の義務付け、「ワンストップ支援センター」の設置、性暴力被害者支援連絡会議や性暴力被害者支援会議の設置
性暴力被害者の支援	資本金100億円以上の法人の所得金額と法人税額等を公示する規定を設ける
法人税法の改正	

ほかにも... 4野党の党首会談での確認事項(5月19日)

- (1) 来年4月からの消費税10%への引き上げに反対する。その他の共通政策について一致点を確認し、積み重ねていく
- (2) 参院1人区ですべてで野党統一候補を実現するとともに、その勝利のために全力をあげる
- (3) 衆院選についてできる限りの協力をおこなうこととし、その具体化を加速する
- (4) 安倍内閣不信任決議案を共同で提出することを検討していく

健康面、生活の相談対応や要観察者のフォローとして、出向いての体調確認や相談をしていました。

高齢者や持病(高血圧、糖尿病等)のある人、体調不良の人にとっては食室内でも生活上の困難になって

保健師として、健康相談コーナーで避難者の心身の

高血圧、糖尿病等)のある人、体調不良の人にとっては食室内でも生活上の困難になって

保健師として、健康相談コーナーで避難者の心身の

避難者のほとんどは、益城町のこの土地でもう一度生活したい希望を強く持っている方が多いので、今後の復興支援が継続されることを願っています。

遊歩道

子どもが産まれて1年ちよっと。子どもの成長とともに月日の流れが早く感じられた。振り返れば、昨年は腫れ物に触るのようになり、沐浴させていたり、ちよっとした泣き声にも右往左往していたが、今では立ち歩きのしたり階段をよじ登るようになり、以前とは違った意味で目が離せない日々を過ごしている。▼テレビもこれまで見ることもなかった番組を頻繁に見るようになり、あまり関心を寄せていなかったニュースに関心を寄せるなど、生活習慣や心境にも変化があったとつくづく感じている。▼阪南市の「幼保一体化、施設集約」問題でも、以前なら「合理的やけど親は大変やなあ」ぐらいにしか考えていなかったと思うが、今は「遠かったら送り迎えだけでも大変なのに、熱が出た時の迎えとかも考えたらめっちゃくちゃ困るよなあ」とか「いきなりこんな話が出たら、仕事と家庭の両立なんかできるんかな」などと考えるようになった。▼公務の仕事では、「合理性」と「住民のため」という両方の視点で物事を考えることはよくあるが、住民目線でも考えていくことの大切さを改めて感じる今日この頃だ。(N)